

インターバンクの声（2015 年 11 月 13 日）

昨晚の海外市場は、欧州中央銀行（ECB）のドラギ総裁や米連邦準備制度理事会（FRB）のイエレン議長をはじめとする複数の連邦公開市場委員会（FOMC）メンバーの発言を待ちながら警戒感を持ってスタートした。ドラギ総裁は引き続きハト派寄りの姿勢を示したが、「12月に金融緩和の度合いを再検証する」との発言に留め、追加緩和の実施を明確に示すことはなかった。米国の12月利上げの可能性については、市場は既にほとんど織り込んでしまっているような状態だが、イエレン議長は昨晚も経済や利上げ時期への言及はなく、代わりにと言うのは間違いだろうが、ニューヨーク連銀のダドリー総裁は「利上げ開始の条件が早期に整う可能性は十分にある」と述べた。ただし、市場はダドリー総裁の「初回利上げ後の金融引き締めは漸進的にしか進まない」との発言をより注目したようで、商品市況や株価の下落にも影響があったようだ。米国経済の成長にも不安がある以上、ドル買いに突っ走るわけにも行かない年末になりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。